（１）中村小学校

学　　校　　長　　宮﨑　由紀子
校内研究代表者　　才市　美奈

１．研究主題

目的に応じて必要な内容を整理し，自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方
―文章の種類や特徴に応じた書き表し方の工夫―

２．主題設定の理由

本校は，学校教育目標を「学び合い　つながり合い　主体的に未来を拓く児童の育成」として，かしこく，やさしく，たくましい子を目指して教育活動を行っている。これまで，高知県教育委員会指定「教育課程拠点校」として，国語科を中心に平成２２年度から平成３０年度までの９年間，研究実践を重ね，児童の姿から検証を行いながら，授業の工夫改善に努めてきた。その研究実践の積み上げを基に，令和元年度から，教育課程指定校事業（国立教育政策研究所委託事業）として２年間の研究指定を受け，新学習指導要領の趣旨を生かした国語科の学習指導に関する研究を推進している。

本研究を始めるに当たって，これまでの全国学力・学習状況調査から，本校児童の課題分析を行った。その中で，「目的や意図に応じ，必要な内容を整理して書く」，「目的や意図に応じて，自分の考えを明確にし，まとめて書く」などの問題で正答率が低く，目的に応じて情報を読み，自分の考えを明確にして書くことに課題が見られた。実際の授業においても，文章の内容を的確に捉えたり，自分の考えをまとめ伝えたいことを明確にして書いたりすることが弱いという実態があった。

また，新学習指導要領では，「A 話すこと・聞くこと」，「B 書くこと」，「C 読むこと」の全ての領域において，自分の考えを形成する学習過程を重視し，「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられている。そして，これらの育成を目指す資質・能力に向け，［知識及び技能］の指導事項に「情報の扱い方に関する指導」が新設され，目的に応じて必要な情報を取り出したり，情報と情報の関係を分かりやすく整理したりして，自分が発信したいことを適切に表現する力の育成が求められている。

前述のような本校児童の課題を解決するとともに，生活の中で必要な力を育むために，「書くこと」の領域・指導事項に焦点化して，児童が言葉による見方・考え方を働かせながら，自分の思いや考えを適切に表現していく姿を目指して，本研究主題を設定し，昨年度は，学習過程の工夫と情報の扱い方に関する学習指導に焦点化して研究を進め，昨年度の研究成果と課題をまとめると，次のような点が挙げられた。

【成果】

①児童の実態に応じて書くことが必要な場面や相手を設定したり，他教科等との関連を図ったりしながら目的意識・相手意識を重視して単元づくりを行うことができた。

②既習の力を使ってまず書いてみて「上手く書けない，困った」「どうしたら書けるかな」という児童の課題意識から，教材で学ぶ必要性を持たせた導入や，指導のねらいに応じて内容や順序等，学習過程を工夫して単元の学習を進めることができた。

【課題】

①単元構想において「身に付けたい資質・能力」，「付けたい力に有効な言語活動」，「教材の特質」の３要素の相関関係を大切にして単元づくりを行ってきたが，児童の実態や反応の捉えが曖昧で，目指す資質・能力の育成が十分できたとは言えない。

②授業において，活動報告文を書く際，必要な内容を満たして事実と意見を区別して書くことに課題があり，また，推薦文を書く際には，お勧めする理由を表すために必要な内容を取捨選択して

書くことに課題が見られた。

③国語科と他教科等との関連を図るカリキュラム・マネジメントが不十分であった。

このような成果と課題から，二年次の研究を進めるにあたり，文章の種類と特徴を踏まえて，目的・相手・場面や状況を意識して書き表し方を工夫していくことが課題の克服につながるのではないかと考え，副題を「文章の種類や特徴に応じた書き表し方の工夫」と設定し，研究を推進してきた。

３．研究の進め方

＜研究内容＞

①　「文章の種類や特徴に応じて書き表し方を工夫する」ための単元構想

・育成を目指す資質・能力の明確化と有効な言語活動の設定，評価規準・評価方法の適正化

・本気になる課題の工夫

・思考の流れに沿った学習過程の工夫

・適切な言葉で書き表すための語彙の拡充

・必要な情報を選択・整理・再構築し，考えと関係付けて書き表す学習指導の工夫

②国語科で付けたい力と他教科等との関連を図る「書くこと」を中心としたカリキュラム・マネジメントの充実

＜研究方法＞

○一人年間２回公開授業（全校研または研究発表会授業＋見て見て授業）を行う。

・各ブロックで研究主題に沿って教材研究，全教員で研究を深める全校研においては単元構想図を作成。先行授業や本時の模擬授業等を行い，研究授業を公開する。

・研究授業後の協議では，「身に付けさせたい資質・能力」を育成することができたのかを中心に据え，参観の視点をもとに成果と課題を明らかにし，授業改善につなげる。

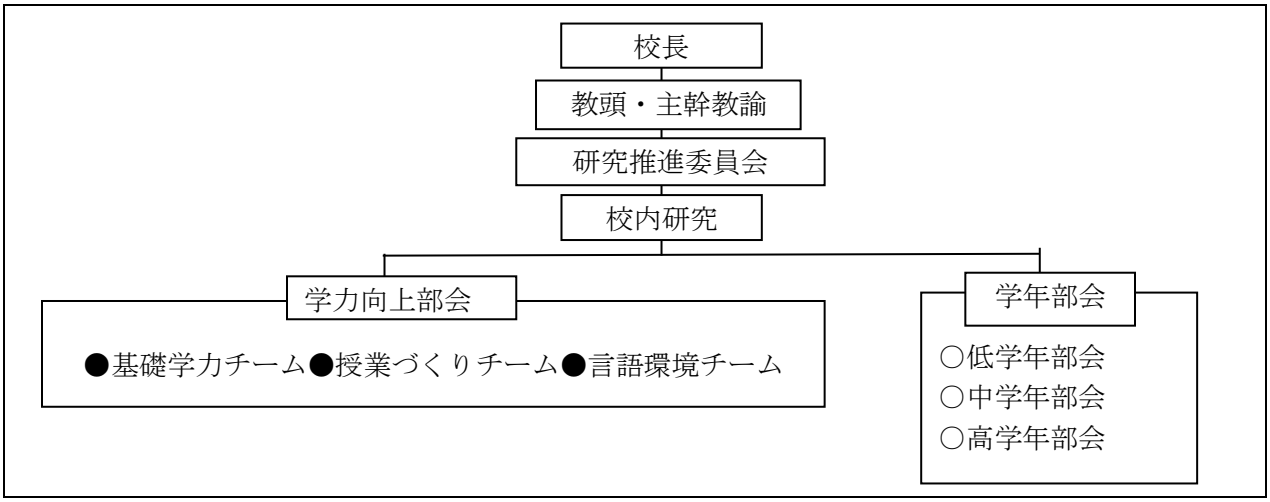
・「見て見て授業」は，「授業構想シート」または，略案を作成し，学年またはブロックで授業を見合う。

・特別支援学級も公開授業を行い，教員の児童理解を図る。

○教育課程研究指定校事業研究発表会（10 月 27 日）は，各ブロック代表が公開授業を行う。

＜研究組織＞

○校内の３部会「学力向上部会」，「仲間づくり部会」，「健康・体力づくり部会」の内，研究に関しては，「学力向上部会」が担う。さらに「学力向上部会」を基礎学力チーム，授業づくりチーム，言語環境チームの３つに分け協働的に研究推進する。



４．研究の取組

①「文章の種類や特徴に応じて書き表し方を工夫する」ための単元構想

・育成を目指す資質・能力の明確化と有効な言語活動の設定，評価規準・評価方法の適正化

「育成を目指す資質・能力」「教材の特質」「言語活動」の３要素の関連を有機的に図ることを大切にして，単元を構想してきた。単元終了時の姿を具体的に描き，単元を通して，言葉による見方・考え方を働かせ，言葉の意味や働き・使い方に着目し，思考・判断・表現していく児童の姿を具体的に描きながら単元構想図に表してきた。そして，モデル文を作成し，言語活動を実践することで，付けたい力を具体化し，評価規準との整合性を見極めることにつなげてきた。

また，文章の種類や特徴を踏まえて書くために，指導の際どのようなことに配慮しておくことが大切か，一覧表に整理しながら単元づくりを行ってきた。

【第５学年】

単元名「家族で協力，地球大好きプロジェクト！」（教材名「環境問題について報告しよう」）

育成を目指す資質・能力

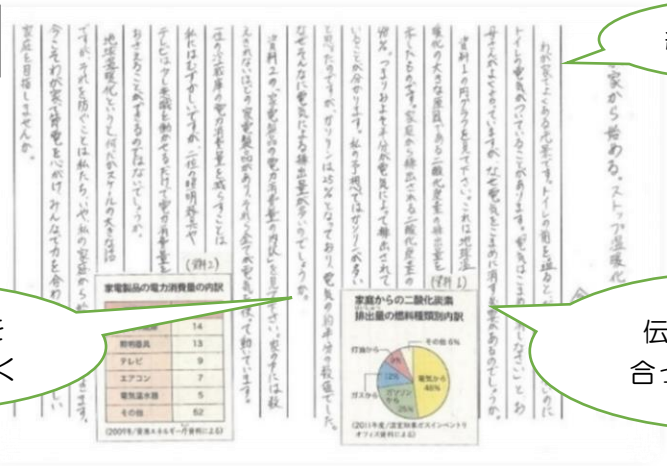
〇引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く力

【知識・技能】（２）情報の整理イ　　【思考力・判断力・表現力等】Ｂエ

言語活動

〇身近な家族に向けて，環境問題について伝えたいことを資料を用いて報告する文章を書く。

言語活動のモデル文



経験と問いかけ

資料から事実を正しく捉えて書く

伝えたい内容に合った資料を選ぶ

・本気になる課題の工夫

児童が主体的に粘り強く学習を進めていくためには，書く原動力となる本気になる課題の設定が重要であると考え，下記のような５つの視点を意識して課題設定を工夫し単元づくりを行った。

①「何とかしたい！」「解決したい！」という必然性や切実感があること
②「あの人に」「このことを伝えたい！」という相手意識・目的意識が明確にあること
③身近なことや現実的なことで，日常生活と関連があること
④児童の願いや思いを生かしていること
⑤他教科等との関連を図り，カリキュラム・マネジメントを生かしていること

事後研究においても，参観の視点の一つとして「児童が本気になる課題であったか」協議し，児童が学習意欲を持続して主体的に書くためのポイントとして，重視してきた。

【第６学年】
単元名「もう怖くない！南海大地震」（教材名「防災ポスターを作ろう」）
　特別活動の防災学習と関連を図り，「南海大地震」の DVD を視聴した。改めて実際の映像を観て，地震の恐怖を感じた６年生は，全校児童へ地震の怖さや地震に備えて置くことなどを伝えなければと，切実感を持って主体的に学習を進めることができた。

〈ポスターを見ている４年生〉

【第１学年】
単元名「しってほしいな　きもちもとどけよう」
（教材名「絵日記を書こう」）
　例年，保育所や幼稚園の先生方に授業を参観していただく機会を設定しているが，今年度はコロナ禍の影響で学習の様子を観てもらうことができない状況だった。そこで，保育所や幼稚園に手紙を依頼することとした。
　懐かしい先生から「学校で楽しい授業は何ですか。」「友だちはたくさんできましたか。」などの手紙が届き，子どもたちは返事を書きたい！先生に教えたい！と張り切って学習をスタートさせた。
　最も適切な相手を設定し，できるようになったことを伝えるためという目的を持たせるしかけを施したことで，「書きたい」という思いを持続して学習に向かう姿が見られた。

〈保育所等の先生からの手紙〉

・思考の流れに沿った学習過程の工夫
　既習の力を使ってまず書いてみる（1 回目），伝えるには不十分だと児童自身が課題意識を持って教材で学習し書く（２回目），さらに必要な情報を収集したり，加筆・修正したりしながら書き上げる（3 回目・清書）等，習得と表現を繰り返し書く力の育成を目指した。また，構成や内容の検討，記述・推敲等，学習過程を行きつ戻りつしながら自分の考えを表現する力につなげてきた。高学年では，「書くこと」の学習過程を黒板に示し，見通しをもって自発的に次の活動に向かう姿を目指した。
　この反復的，螺旋的に行う学習過程の中で，問い返しのある対話や友達からの評価を繰り返し位置付けたことが，自分の伝えたいことに立ち返りながら言葉を選んで表現することにつながっていた。

学習過程を示す

思考スキル

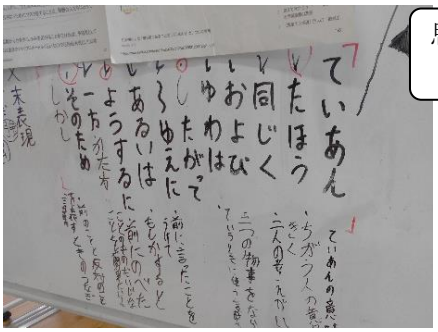
また，自分の考えを明確にしながら判断したり思考を深めたりするために，理由や根拠を問う発問等を用意して授業づくりを行ってきた。

思考を深める発問例
〇相手に納得してもらうために，理由がどのような文章に変わりましたか？
〇資料と結び付いていることが文章のどこから分かりますか？
〇説得力をさらにパワーアップさせるために，もらったアドバイスはどんなことでしたか？

・適切な言葉で書き表すための語彙の拡充

学年に応じた語彙集「言葉の宝箱」は，毎年見直し修正しながら作成し，年度当初，全校児童に配布している。また，児童の実態に応じて言葉集めの学習を設定し，語彙の拡充・言葉に対する意識化を図るようにしてきた。「言葉の宝箱」や集めた語彙を活用しながら，自分の思いや考えにぴったり合う言葉を選んで書く児童が見られるようになってきた。

さらに，記述を推敲する際は，チェックリストの項目に沿って，文章を見直し整えることができるようになり，自覚的に言葉を磨いていこうとする姿が見られた。



思考に関わる語句
（６年生）

気持ちを表す言葉
（1 年生）

・必要な情報を選択・整理・再構築し，考えと関係付けて書き表す学習指導の工夫

目的に応じて必要な情報を収集（本やパンフレット等の図書資料・インターネット・アンケート・インタビュー等）し，伝えたい内容に合う適切な情報を取捨選択していく単元づくりを行った。低学年から付箋を活用し，伝えたいことを書き出す，同じ内容はまとめる，考えと合わせて内容を選び出す等の学習活動を展開してきた。中・高学年では，資料から分かることを付箋に書き出し，自分の考えや意見は付箋の色を変えて書き，線でつなぐ・印を付ける等，情報と自分の考えと関係付けて比較・分類しながら整理し，条件（分量や字数等）に応じて再構築して書く児童の主体的な姿が見られた。

先生へインタビュー
（２年生）

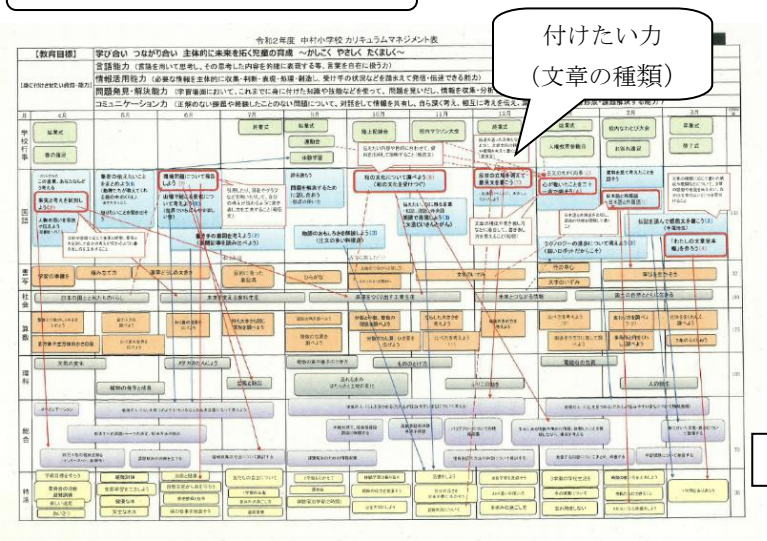
本から情報収集
（５年生）

資料を比較・検討
（６年生）

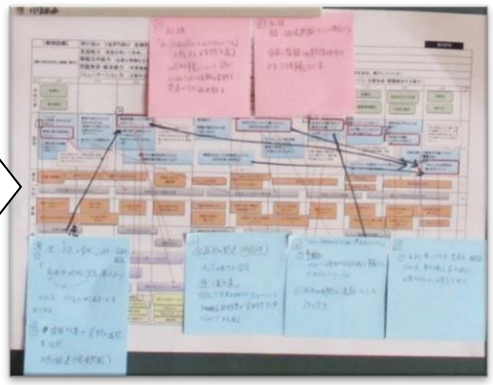
② 国語科で付けたい力と他教科等との関連を図る「書くこと」を中心としたカリキュラム・マネジメントの充実

「書くこと」の指導事項と重点教科として社会科・算数科・理科・生活科・総合的な学習の時間・特別活動及び学校行事等との関連を図りながら，カリキュラム・マネジメント表を作成した。「書くこと」における付けたい力と文章の種類を示し，他教科等との関連を整理することで，見通しをもって単元づくりに取り組むことができた。学んだこと・身に付けた力を活用し，効果的に学びをつなげることができているか，毎学期末にカリキュラム・マネジメント表を見直し，加筆・修正を行ってきた。

カリキュラム・マネジメント表



学年団で見直し

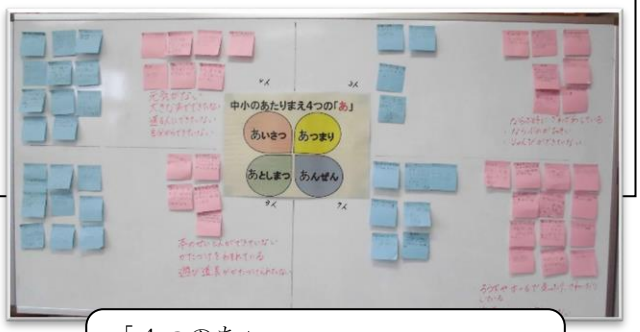


【第３学年】

単元名『中小パワーアップ大作戦！「４つのあ」について自分の考えを書こう』

（教材名「自分の考えをつたえよう」）

「学校生活をより良くするために考える」という特別活動の見方・考え方と有効な関連付けができると考え，単元づくりを行った。特活では，全校の取組「４つのあ」について，今できていることやできていないことを書き出し，自分たちの中村小をもっと良くするために，自分事として課題意識を持ち，国語科の学習（自分の考えとその理由を明確にして書き表し方を工夫して書く）につなげることができた。



「４つのあ」
できていること・できていないこと」
付箋に書き出す ⇒　課題意識

５．校内研究の充実・検証

授業力向上に向けて，授業改善の取り組みを示したロードマップに沿って，協働体制を構築し，授業研究を通して，全教員で児童の姿から学び合い，目指す授業づくりを確認し，共有を図ってきた。この研究授業の事後研で明らかになった成果や課題を授業実践に生かせるよう，研究通信（チーム中小）を発行し，目指す授業について研究の拡充を図ってきた。また，授業者・参観者共に授業を振り返り，自身の授業に取り入れる内容・方策をリフレクションシートに記述することで，授業改善サイクルを確立してきた。

（研究について検証⇒改善）

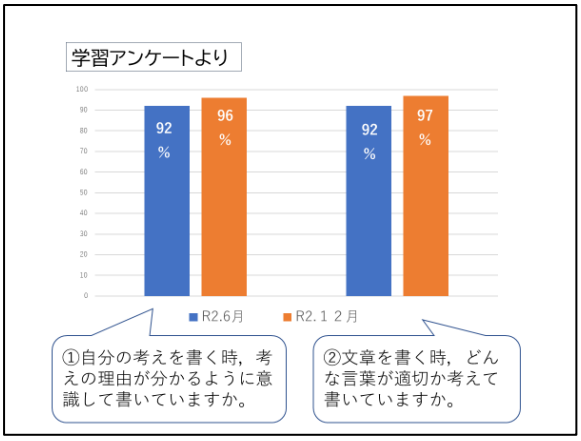
・リフレクションシートのまとめを共有する
・授業改革に関わり定期的に自己チェックを行う
・目指す児童・授業づくりに向けて，ブロック別に現状把握とその対策の意見交流を行う

研究発表会　リフレクション

６．今年度の成果と課題

＜成果＞

・単元を構想する際には，常に，育成すべき資質・能力を明確にするとともに，言語活動，教材の特質を考えて単元づくりを行うことを基本として進めることができるようになってきた。また，文章の種類や特徴に応じて自覚的に言葉に着目し，書き表し方を工夫していく児童の姿を目指して，単元づくりを行うことができた。
・書く原動力となる「本気になる課題」（(目的意識・相手意識，必然性や切実感，児童の興味・関心，身近な体験などを生かせる題材など）を設定することで，以前よりも主体的に学習に取り組む児童の姿が見られるようになった。
・児童の学習アンケートの結果からも書くことに対する意欲が高まってきたと感じている。
　アンケートの設問
　①「自分の考えを書く時，考えの理由が分かるように意識して書いていますか。」
　②「文章を書く時，どんな言葉が適切か考えて書いていますか。」
　6 月と 12 月を比較すると，①②とも肯定的評価の伸びが見られる。



＜課題＞

・児童の書きあげた文章には，自分の考え（伝えたいこと）と，用いた資料の整合性が取れていないものがあり，目的に応じて適切な資料を選択することに，まだ課題が見られる。集めた情報はもとより本当に必要なものを取捨選択できているのか，児童自身が問い返すことができる力を付けるために，学習過程の更なる工夫が必要である。また，選択した情報を再考するためのポイントを示したりするなどして，資料選択の根拠を挙げることができるようにさせたい。

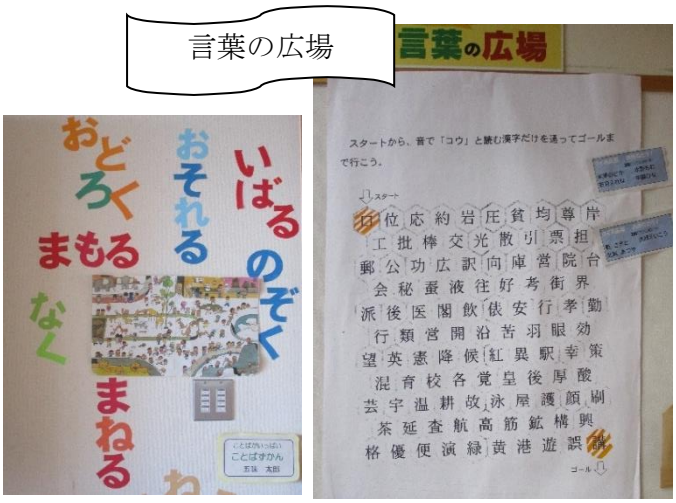
・全体として，適切な言葉を選んで表現していくことにはまだ弱さが見られる。自分の考えを持ち，言葉にこだわって発言したり書いたりする児童の姿・状態を，教員が具体的にイメージして単元づくりを行う必要がある。特に，学習評価の３観点の一つである「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は,「一番よいと思う構成を決めるために，集めた情報を相手や目的に応じて，いくつかのパターンで並び変えている」など，児童の姿を具体的に描いて設定する必要がある。

・カリキュラム・マネジメントは，国語科と他教科等との指導内容や学習活動での関連づけで計画・実施しており，育成すべき資質・能力での関連づけが弱かったので，他教科等との同じ柱同士での結び付きを考えていく。

●言語環境の工夫

言葉に関心を持ち，語彙を豊かにしていく姿を目指して，校舎各階に「言葉の広場」コーナーを設けて掲示したり，学校図書館の環境整備など言語環境を改善・工夫してきた。

言葉の広場



学校図書館環境